



平成25年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社フェヴリナホールディングス
コード番号 3726 URL <http://www.favorina-holdings.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松浦 正英

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部 本部長 (氏名) 熊本 昭俊

TEL 092-720-5460

四半期報告書提出予定日 平成25年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年9月期第3四半期の連結業績(平成24年10月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第3四半期	1,548	—	△29	—	△54	—	△342	—
24年9月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 25年9月期第3四半期 △342百万円 (—%) 24年9月期第3四半期 —百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第3四半期	△60.02	—
24年9月期第3四半期	—	—

平成24年9月期は、決算期変更により平成24年4月1日から平成24年9月30日までの6ヶ月間となっており、平成24年9月期第3四半期連結財務諸表を作成していないため、平成24年9月期第3四半期の記載及びこれに係る対前年同四半期増減率については記載しておりません。また、当社は平成25年4月1日付で普通株式1株を10株に分割しており、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当該分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
25年9月期第3四半期	1,121	—	690	—	59.9	120.91
24年9月期	1,369	—	909	—	64.9	193.30

(参考) 自己資本 25年9月期第3四半期 671百万円 24年9月期 888百万円

当社は平成25年4月1日付で普通株式1株を10株に分割しており、1株当たり純資産については、当該分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	—	—	0.00	0.00
25年9月期	—	—	—	—	—
25年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月期の配当予想につきましては未定です。

3. 平成25年9月期の連結業績予想(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,990	—	△10	—	△20	—	△320	—	△56.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成24年9月期は、決算期変更により6ヶ月の変則決算であったため、通期の対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
 新規 2社 (社名) 株式会社ソフトエナジーホールディングス、株式会社ソフトエナジーコントロールズ、除外 2社 (社名) 株式会社ソフトエナジーホールディングス、株式会社ソフトエナジーコントロールズ
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期3Q	5,808,670 株	24年9月期	4,698,660 株
② 期末自己株式数	25年9月期3Q	101,008 株	24年9月期	100,830 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年9月期3Q	5,707,662 株	24年9月期3Q	— 株

平成24年9月期は、決算期変更により平成24年4月1日から平成24年9月30日までの6ヶ月間となっておりますので、上記、平成24年9月期3Qについては記載しておりません。また、当社は平成25年4月1日付で普通株式1株を10株に分割しており、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数については、当該分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社が本資料の発表日現在で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、当社の事業を取り巻く経済情勢、市場動向等に関する様々な要因により、記述されている業績予想とは異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(5) セグメント情報等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等に加え、政権交代に伴う経済政策への期待から円安、株価の回復がみられたものの、近隣諸国との領土問題による景気の減速、欧州の財政危機、中国をはじめとしたアジア諸国の景気の減速など、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと当社におきましては、平成24年7月1日より持株会社へと移行し、平成24年10月1日には株式会社ソフトエナジーホールディングス（以下、「SEH」といい、同社の子会社と併せて「SEグループ」という）と経営統合を行い、「時代の潮流を見据えた事業展開」という創業時の発想に立ち戻り、既存事業であります化粧品及び健康食品等の通信販売業をコア事業としつつも、今後大きな成長が期待できる新しい充放電検査装置におけるエンジニアリング事業に参入いたしました。

しかし、より競争が激化する市場環境において、当該事業を拡大するためには、SEHにおいて、更なる投下資金・運転資金を支える柔軟な資本政策並びにより高度な経営戦略、営業戦略の実行が必要との認識に至り、第三者割当増資を通じた役員等によるMBO（マネジメント・バイアウト）を行うことにより、財務体質の強化を行いました。これにより、SEグループは当社の連結子会社から持分法適用関連会社へと異動いたしました。

当社としましては、今後の成長分野である充放電検査装置に係るエンジニアリング事業を営むSEグループとの経営統合を果たして間もない時期ではありますが、急速かつ安定的に当該事業の成長を促すことが、結果として、当社の企業価値の向上に資するものと判断しており、また、当社はSEグループを事業戦略上の重要な関連会社であると位置づけており、引き続き協力体制を維持して参ります。

なお、当該事業の収益改善には時間を要すると判断したため、第1四半期連結会計期間において、のれんの減損処理を実施し、SEHにおいて子会社株式の評価を見直したことに伴い、関係会社株式評価損3,031千円を計上いたしました。また、ストックオプションとして発行した新株予約権の行使期間が満了したことに伴い、新株予約権戻入益2,364千円を計上しております。当第3四半期連結会計期間においては、SEグループが持分法適用関連会社へ異動したことに伴い、持分変動利益を計上いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,548,029千円となり、営業損失29,447千円、経常損失54,389千円、四半期純損失342,625千円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、SEHが平成25年4月26日付で第三者割当増資を実施したことに伴い、当社の持分比率が低下し、SEグループは連結子会社から持分法適用関連会社へ異動いたしました。

その結果、当社グループの報告セグメントは当第3四半期連結会計期間より「コミュニケーション・セールス事業」の単一セグメントとなりましたので、「機械機器製造事業」については、第2四半期連結累計期間までの実績を記載しております。

① コミュニケーション・セールス事業

新規顧客層の拡大に関しましては、前連結会計年度に引き続き新商品を導入し、積極的に顧客獲得の間口を広げてまいりました。10月に高ライフ・タイム・バリューが見込まれる新商品「羊ブラセンタ」（健康食品）を、11月に美意識の高い顧客向けの中価格帯新商品「ナノアクア フェイスマスク」（美白パック）を新たに販売いたしました。

次に、既存顧客層の確保に関しましては、引き続きカスタマーフレンドの対応スキルアップに注力し、リピート率の向上を図ってまいりました。また、WEB販売施策に関しましては、サイトコンテンツの充実に取り組んで参りました。

この結果、売上高は953,769千円となりました。また、利益面につきましては、広告宣伝の効率化、人件費の削減等の合理化策を進めておりますが、売上高の減少をカバーするには至らず、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント損失は16,565千円となりました。引き続き事業基盤の安定と収益性の向上を図り、黒字体質の定着化に努めてまいります。

② 機械機器製造事業

充放電検査装置に関しましては、近隣諸国との領土問題による景気の減速や大型リチウムイオン電池が最も利用される電気自動車（EV）の普及の遅れなどにより、顧客企業の設備投資は不透明な状況が続いております。

次に、電源基盤の製作に関しましては、既存機種種の制御機器及び電源機器類において、概ね横ばいで推移しております。また、当第3四半期連結累計期間において、エネルギー管理システム（HEMS等）機器の製造を開始しており、当該システムの売上につきましては順調に推移している状態です。

この厳しい経営環境に対応するため、大幅な経費削減を行いました。売上高の減少をカバーすることができず、売上高585,860千円、セグメント損失2,342千円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は1,121,341千円（前連結会計年度末1,369,100千円）、その内訳は流動資産971,853千円、固定資産149,488千円となり、前連結会計年度末に比べ247,759千円減少いたしました。これは主に、短期貸付金の減少49,365千円、長期貸付金の減少106,353千円、貸倒引当金の増加94,227千円によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は431,218千円（前連結会計年度末459,317千円）、その内訳は流動負債348,849千円、固定負債82,368千円となり、前連結会計年度末に比べ28,099千円減少いたしました。これは主に、短期借入金の増加50,000千円、買掛金の減少19,388千円、長期借入金の減少16,605千円、未払費用の減少15,153千円、未払金の減少12,718千円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は690,122千円（前連結会計年度末909,782千円）となり219,660千円減少いたしました。これは主に、SEHとの株式交換による資本剰余金の増加125,431千円と四半期純損失342,625千円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年9月期の連結業績予想につきましては、平成25年5月7日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成24年10月1日付で行った株式交換により株式会社ソフトエナジーホールディングス（以下「SEH」とい
い、その子会社である株式会社ソフトエナジーコントロールズ及び株式会社エコロニウムを併せて「SEグルー
プ」という）を連結の範囲に含めておりましたが、平成25年4月26日にSEHが実施した第三者割当増資により持
分比率が低下したため、当第3四半期連結会計期間よりSEグループは、持分法適用関連会社へ異動いたしまし
た。

なお、ふくしまEVバス製造株式会社は、休眠会社であり、重要性が乏しいため、連結及び持分法の適用範囲か
ら除外しております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで2期連続の営業損失、経常損失及び当期純損失を計上しました。平成24年10月1日より株式会社ソフトエナジーホールディングス及びその子会社が当社グループに加わりましたが、当社グループは当第3四半期連結累計期間においても営業損失、経常損失及び四半期純損失を計上しております。当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消又は改善するため、以下の施策に取り組んでおります。

- ① 株式会社フェヴリナにおいては、中期事業計画を策定し、営業力の強化による売上の回復を目指しております。中期事業計画の主な内容は以下のとおりです。
 - a. 販売チャネルの増加やWEBマーケティング強化などによる新規顧客の拡大
 - b. 顧客ターゲット層を明確化した広告宣伝の実施
 - c. カスタマーフレンド（販売担当者）顧客対応力向上のための研修強化
 - d. 紙媒体の宣伝の拡大やWEB売上割合増加による広告宣伝費の削減
- ② 株式会社ソフトエナジーホールディングスの子会社である株式会社ソフトエナジーコントロールズ、株式会社エコロニウムにおいては、営業力強化による売上回復を図るとともに、リストラを実施し損益改善に努めております。なお、株式会社ソフトエナジーホールディングスは平成25年4月26日、平成25年6月27日に第三者割当増資を実施しております。

当第3四半期連結累計期間では、株式会社フェヴリナにおける新商品投入や販促活動の効率化、株式会社ソフトエナジーコントロールズにおけるリストラによる費用削減等の対応策を講じたことにより損益は改善しております。また、上記のとおり株式会社ソフトエナジーホールディングスの第三者割当増資の実施によりグループ全体としての財務基盤も強化されております。さらに、株式会社フェヴリナが旧仕入先より受けていた主力商品のジェルパックに係る販売差し止めの仮処分申し立てについても、平成25年6月14日に和解が成立しております。これらの状況から、当社グループが向こう1年間において資金不足となる可能性は低いと判断しております。

しかしながら、化粧品通販市場がほぼ成熟しているなか、他業種からの新規参入や商品の低価格化が続くなど、株式会社フェヴリナをとりまく環境は依然として厳しい状況にあります。さらに、当社グループに加わった株式会社ソフトエナジーホールディングスは、リチウムイオン電池に係る充放電検査装置におけるエンジニアリング事業を主要な事業としており、今後大きな成長が期待できる分野ではありますが、海外企業との価格競争、新エネルギーの台頭による急激な受注減など経営環境が激変する可能性があります。このため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	674,522	709,168
売掛金	86,737	69,699
商品及び製品	147,186	181,508
原材料及び貯蔵品	1,623	1,256
その他	77,439	10,440
貸倒引当金	△274	△221
流動資産合計	987,235	971,853
固定資産		
有形固定資産	81,605	59,836
無形固定資産	51,544	40,612
投資その他の資産	248,715	49,039
固定資産合計	381,865	149,488
資産合計	1,369,100	1,121,341
負債の部		
流動負債		
買掛金	39,127	19,738
短期借入金	150,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	22,140	22,140
未払法人税等	3,429	2,568
賞与引当金	14,915	5,700
返品調整引当金	948	1,222
その他	128,391	97,479
流動負債合計	358,952	348,849
固定負債		
長期借入金	73,881	57,276
資産除去債務	21,945	22,126
その他	4,539	2,966
固定負債合計	100,365	82,368
負債合計	459,317	431,218
純資産の部		
株主資本		
資本金	882,788	882,788
資本剰余金	—	125,431
利益剰余金	34,604	△308,045
自己株式	△28,628	△28,705
株主資本合計	888,765	671,469
新株予約権	21,017	18,652
純資産合計	909,782	690,122
負債純資産合計	1,369,100	1,121,341

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)
売上高	
商品売上高	953,769
製品売上高	585,860
経営指導料	8,400
売上高合計	1,548,029
売上原価	639,230
売上総利益	908,799
返品調整引当金戻入額	948
返品調整引当金繰入額	1,222
差引売上総利益	908,524
販売費及び一般管理費	937,972
営業損失(△)	△29,447
営業外収益	
受取利息	845
為替差益	585
貸倒引当金戻入額	590
その他	763
営業外収益合計	2,783
営業外費用	
支払利息	6,771
持分法による投資損失	20,145
その他	809
営業外費用合計	27,725
経常損失(△)	△54,389
特別利益	
持分変動利益	262,393
新株予約権戻入益	2,364
特別利益合計	264,758
特別損失	
減損損失	455,561
関係会社株式評価損	3,031
和解金	3,000
貸倒引当金繰入額	94,280
特別損失合計	555,873
税金等調整前四半期純損失(△)	△345,504
法人税、住民税及び事業税	1,854
法人税等還付税額	△4,055
法人税等調整額	△677
法人税等合計	△2,878
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△342,625
四半期純損失(△)	△342,625

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成24年10月1日
至 平成25年6月30日)

少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△342,625
四半期包括利益	△342,625
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△342,625
少数株主に係る四半期包括利益	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、前連結会計年度まで2期連続の営業損失、経常損失及び当期純損失を計上しました。平成24年10月1日より株式会社ソフトエナジーホールディングス及びその子会社が当社グループに加わりましたが、当社グループは当第3四半期連結累計期間においても営業損失、経常損失及び四半期純損失を計上しております。当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消又は改善するため、以下の施策に取り組んでおります。

- ① 株式会社フェヴリナにおいては、中期事業計画を策定し、営業力の強化による売上の回復を目指しております。中期事業計画の主な内容は以下のとおりです。
 - a. 販売チャネルの増加やWEBマーケティング強化などによる新規顧客の拡大
 - b. 顧客ターゲット層を明確化した広告宣伝の実施
 - c. カスタマーフレンド（販売担当者）顧客対応力向上のための研修強化
 - d. 紙媒体の宣伝の拡大やWEB売上割合増加による広告宣伝費の削減
- ② 株式会社ソフトエナジーホールディングスの子会社である株式会社ソフトエナジーコントロールズ、株式会社エコロニウムにおいては、営業力強化による売上回復を図るとともに、リストラを実施し損益改善に努めております。なお、株式会社ソフトエナジーホールディングスは平成25年4月26日、平成25年6月27日に第三者割当増資を実施しております。

当第3四半期連結累計期間では、株式会社フェヴリナにおける新商品投入や販促活動の効率化、株式会社ソフトエナジーコントロールズにおけるリストラによる費用削減等の対応策を講じたことにより損益は改善しております。また、上記のとおり株式会社ソフトエナジーホールディングスの第三者割当増資の実施によりグループ全体としての財務基盤も強化されております。さらに、株式会社フェヴリナが旧仕入先より受けていた主力商品のジェルバックに係る販売差止め仮処分申し立てについても、平成25年6月14日に和解が成立しております。これらの状況から、当社グループが向こう1年間において資金不足となる可能性は低いと判断しております。

しかしながら、化粧品通販市場がほぼ成熟しているなか、他業種からの新規参入や商品の低価格化が続くなど、株式会社フェヴリナをとりまく環境は依然として厳しい状況にあります。さらに、当社グループに加わった株式会社ソフトエナジーホールディングスは、リチウムイオン電池に係る充放電検査装置におけるエンジニアリング事業を主要な事業としており、今後大きな成長が期待できる分野ではありますが、海外企業との価格競争、新エネルギーの台頭による急激な受注減など経営環境が激変する可能性があります。このため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年10月1日付で当社を株式交換完全親会社とし、SEHを株式交換完全子会社とする株式交換を実施いたしました。この株式交換により、資本剰余金が125,431千円、自己株式が5千円増加し、また、当第3四半期連結累計期間において342,625千円の四半期純損失を計上いたしました。この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が125,431千円、自己株式が△28,705千円、利益剰余金が△308,045千円となっております。

なお、SEHが平成25年4月26日付で第三者割当増資を実施したことに伴い、当社の持分比率が低下し、SEグループは連結子会社から持分法適用関連会社へ異動いたしました。

(5) セグメント情報等

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日）

1. 報告セグメントの概要

当社グループの事業セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。

当社グループは、株式会社ソフトエナジーホールディングス及びその子会社2社（以下、「SEグループ」という）を連結の範囲に含めたことに伴い、「コミュニケーション・セールス事業」及び「機械機器製造事業」の2つを報告セグメントとしておりました。しかし、株式会社ソフトエナジーホールディングスが平成25年4月26日付けで第三者割当増資を実施したことに伴い、当社の持分比率が低下し、SEグループは連結子会社から、持分法適用関連会社へ異動いたしました。

その結果、当社グループの報告セグメントは当第3四半期連結会計期間より「コミュニケーション・セールス事業」の単一セグメントとなりましたので、「機械機器製造事業」については、第2四半期連結累計期間までの実績を記載しております。

「コミュニケーション・セールス事業」では、化粧品及び健康食品の通信販売を主な事業としております。

「機械機器製造事業」では、充放電検査装置におけるエンジニアリング事業を主な事業としております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	コミュニケーション・セールス事業	機械機器製造事業	
売上高			
外部顧客への売上高	953,769	585,860	1,539,629
セグメント損失(△)	△16,565	△2,342	△18,907

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	△18,907
全社収益(注1)	70,200
全社費用(注2)	△80,740
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△29,447

(注1) 全社収益は、当社におけるグループ会社からの経営指導料であります。

(注2) 全社費用は、当社における持株会社運営にかかる費用であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失及びのれんの金額の重要な変動)

「機械機器製造事業」セグメントにおいて、株式会社ソフトエナジーホールディングスを完全子会社化した際にのれんが479,538千円生じましたが、買収評価時に想定していた超過収益力が見込めなくなったことから、第1四半期連結会計期間において、減損損失を認識しております。なお、当該事象によるのれんの減損処理額は、当第3四半期連結累計期間においては455,561千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。